

駅など5件に決定

周囲の緑化に配慮し、公益を考えてつくり出された景観を表彰。今年で五回目、十周年を迎える「まえばし都市景観賞」が決まりました。今回は物件を対象とした「まえばし都市景観賞奨励賞」に一件が選ばれました。ここでは、受賞した建物や活動を紹介します。

都市景観賞

4件

街並みと融合した駅舎

中央前橋駅（城東町三丁目）

広瀬川が傍らに流れ、河畔や道路からもよく見えるため、市民の意識を引く好立地。軽やかな印象を与える細身の円柱、透過性と映り込みの同居するガラスの外壁など、街並みとの調和や「見る」「見られる」の視覚的關係、夜間景観の彩りが優れています。



気品あり清らかな印象

髪職人（二之宮町）

屋根の丸い曲線が美しく、斬新さと優雅さを感じさせます。屋根の緑色と淡い茶色の石材調の外壁の色が、気品よくマッチ。建物に余分な装飾がなく、清らかな印象です。駐車場や樹木にも配慮が見られ、緑の多い立地に調和した風格ある建築物です。



選考委員

敬称略

宮本忠長（委員長・日本建築士会連合会会長）、秋山隆（群馬建築士会副会長）、安達真枝（群馬芸術学園理事）、小田桐睦雄（上毛新聞社取締役）、金子才一郎（商工会議所会頭）、狩野千代松（創作こけし作家）、鎌田幸生（勢多農林高教諭）、川上みつ江（群馬建築士会女性委員会副委員長）、小林景前橋工科大教授、高橋晴人市民展委員長。

宮本委員長の総評

本市には、変化に富んだ豊かな場所性を物語る中景がたくさんあります。

本来、都市景観をつくる主格は建築物が記念碑のような造形体ですが、それを取り上げただけでは優れた景観とはいえません。主格の周囲の緑化に配慮し、また、市民に開放したり、さまざまな仕掛けを作ったりして、公益を考えて創出された、優れた近景を表彰するのが、まえばし都市景観賞です。

審査は一次選考を書類、写真などで行い、最終段階